

平成 21 年 9 月 28 日

近畿建設記者クラブ担当記者 各位
学研都市記者クラブ担当記者 各位
都市機構森之宮記者クラブ担当記者 各位

独立行政法人 都市再生機構 西日本支社

京大高槻農場のけいはんな学研都市への移転等に係る大枠合意について — ニュータウン事業と都市再生事業の一体的な取組 —

UR 都市機構は、高槻市内にある京都大学大学院農学研究科附属農場の移転について、これまで京都大学及び高槻市と共に協議を進めてきたところです。

この度、当該農場を関西文化学術研究都市（けいはんな学研都市）の「木津中央地区」へ移転することについて合意に至り、基本的事項について、三者による覚書の交換を行いましたので、UR 都市機構のニュータウン事業と都市再生事業の一体的な取組内容についてお知らせいたします。

なお、本件につきましては、京都大学から京都大学記者クラブへ別添 2 を、高槻市から北摂記者クラブへ別添 3 を、同時に発表しております。

お問い合わせは下記へお願いします。

西日本支社 関西文化学術研究都市事業本部

事業部 事業計画第一課 寺元、柳田

（電話）0774-73-1503

業務部 総務経理課 吉田

（電話）0774-73-2702

西日本支社

総務企画部 総務・経営チーム（広報） 江崎

（電話）06-6969-9008

街に、ルネッサンス



UR 都市機構

京大高槻農場のけいはんな学研都市への移転等に係る大枠合意について

— ニュータウン事業と都市再生事業の一体的な取組 —

1 大枠合意の意義

UR 都市機構は、国家の喫緊の課題である「都市再生」の実現及び国家的プロジェクトである関西文化学術研究都市（けいはんな学研都市）の建設に取り組んでいます。

当機構は高槻市からの依頼を契機として、京都大学大学院農学研究科附属農場の移転に伴う跡地の一部を防災公園として整備する可能性を検討するとともに、けいはんな学研都市の一クラスターである木津中央地区（京都府木津川市）への移転の可能性について、そのフレームを検討し、京都大学に提案してまいりました。

この取組みの結果、本日、京都大学大学院農学研究科附属農場の木津中央地区への移転について、関係者間で大枠の合意に至り、当機構が架け橋となったコーディネートが結実する運びとなりました。

これにより、高槻市の中心市街地においては、「都市再生」が実現するとともに、けいはんな学研都市においては、サードステージプランの取組みの柱の一つである「持続可能社会のための科学」を研究するための中核施設が誘致されることとなり、けいはんな学研都市の発展に寄与することとなります。

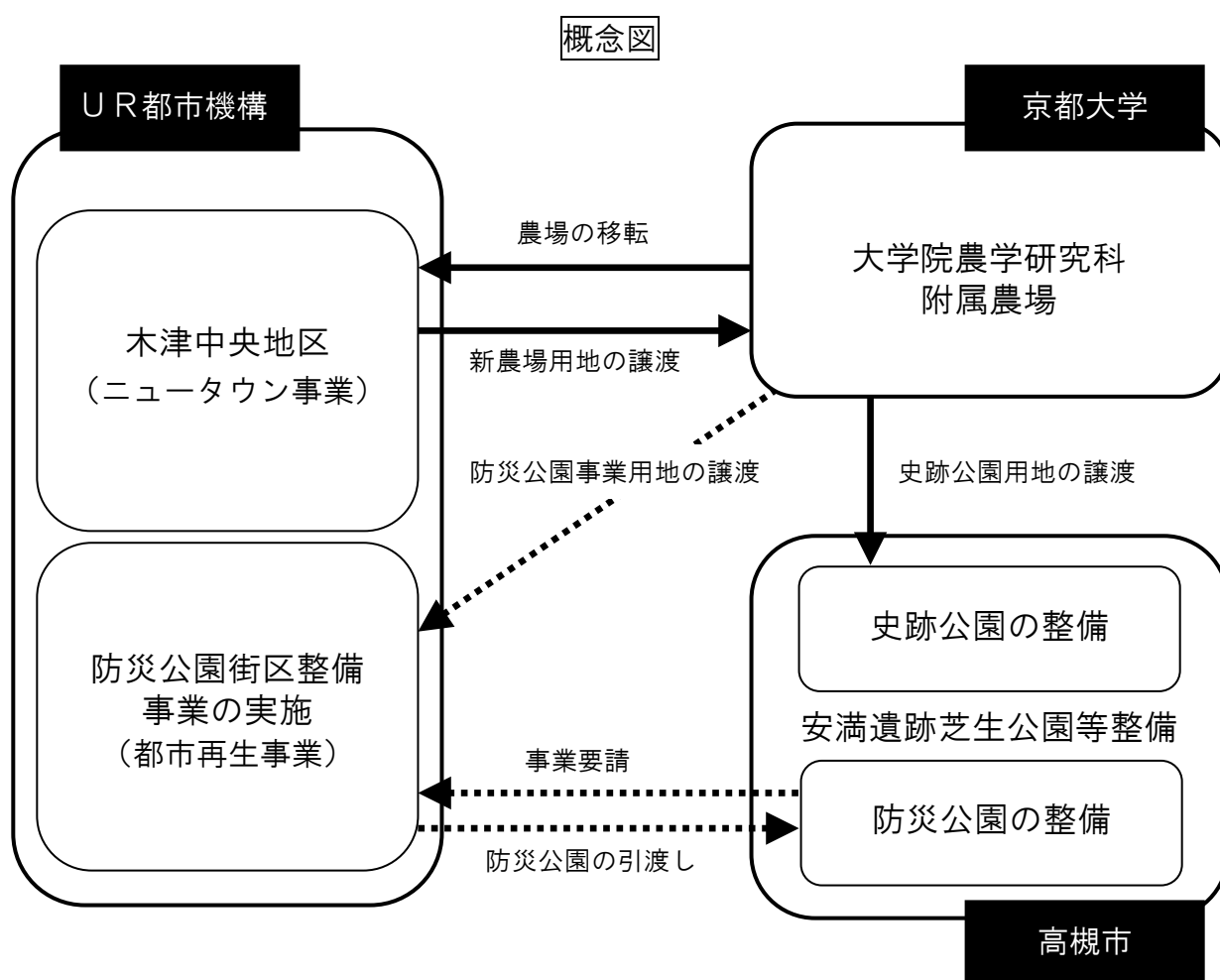
2 主な経緯

- 平成 19 年 12 月 高槻市から当機構に対し、農場跡地における公園等の整備推進について協力依頼
当機構から京都大学に対し、移転に係る協力を依頼するとともに、移転候補先として木津中央地区を提案
京都大学から当機構に対し、木津中央地区への移転も一選択肢である旨の回答
- 平成 20 年 10 月 当機構から京都大学に対し、木津中央地区を移転先として再提案
11 月 京都大学から当機構に対し、木津中央地区への移転について関係者協議を行う旨の回答
- 平成 21 年 9 月 京都大学、高槻市、当機構による大枠合意（覚書の交換）

3 大枠合意の内容【別添1覚書のとおり】

(1) 基本フレーム

- ① 京都大学は、当機構が土地区画整理事業を施行する木津中央地区内の用地に農場を移転することとし、当機構は、新農場用地を京都大学に譲渡する。
- ② 高槻市は、農場跡地を活用して公園等整備を行うものとし、京都大学は、農場跡地を高槻市に譲渡する。
- ③ 当機構は、農場跡地の一部について、高槻市から防災公園街区整備事業の事業要請が行われ、事業を実施すると判断した場合には、京都大学から当該事業に必要な土地を取得し、当該事業の完了後に高槻市に引き渡す。



(2) 予定スケジュール

京都大学、高槻市及び当機構は、平成22年度末を目途に、譲渡条件（面積、形状、引渡し時期等）を確定し、基本協定を締結する予定。

以上